



心の絆ネットワークからのお知らせ

令和5年3月

ごあいさつ

理事長 兒玉 宏



春も本番を迎え桜が芽吹く季節になり、コロナも落ち着きを見せ、暮らしへの影響にも変化が現れることと思います。

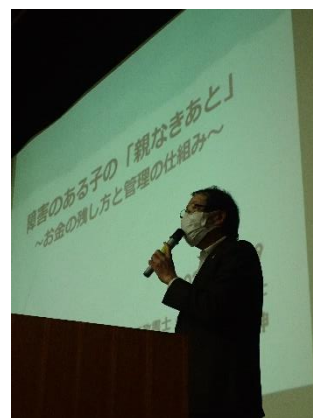
皆様におかれましては、日頃より心の絆ネットワークへのご理解とご協力を頂きありがとうございます。

昨年から2回にわたり実施しました「障害のある人の親なきあとの備え」に関するフォーラム・セミナーを終え、ご参加いただいた皆様からは大きな反響をいただいております。今後はより具体的で役に立つ内容の相談会やイベントに発展させてまいります。

心の絆ネットワークは障害のある方やその親御様や、高齢者の皆様やそのご家族の方たちに寄り添い、現実的で具体的に役立つ活動を進めてまいります。今後とも心の絆ネットワークの発展へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

障害のある人の親なきあと 「後見人は誰になる？」フォーラム 「備えと手続きセミナー」を開催しました

11月19日、東京の「親なきあと」相談室主宰の渡部伸さんに「お金の残し方と管理の仕組み、お金で困らないための準備を」と基調講演をしていただきました。将来への不安はつきないものですが、**親も子も社会とのつながりをもつこと、情報収集などの最低限の準備をしておこう**と言われました。



渡部さんの講演の後、「後見人は誰になる？」をテーマに当事者である親御さん、弁護士、市民後見人で討論をしました。



心の絆ネットワークからも市民後見人(市民後見人養成講座の修了生)が、「自宅で暮らす本人が安定して生活するには、同居の母親への支援も欠かせない」と本人を中心に考えながらも、母へもしっかりフォローをしているエピソードを発表しまし

た。中国新聞が開催についての記事を掲載してくださり、122名の参加がありました。

家族の状況により求めることが違いますが、「**後見人は誰がなるか**」後見人との関係をみる
ときのポイントとしては、**いかに本人の意思を大事にしていけるか、地域でその人らしく生活で
きるようチームワークで支えることではないでしょうか。**



1月29日、**障害年金のこと、子どもへのお金の残し方とその管理の仕
方、後見についてセミナー**を開催しました。具体的な制度や手続きについ
て3名の講師に話していただきました。不安なこと、困っていることを相
談できる人や場所を伝えることができ、実際の相談につながっています。

これらの講演について冊子にまとめています。法人正会員の方、講演
参加者で希望される方には今回この会報と一緒にお届けしています。他
にご希望される方、内容についての問い合わせは心の絆ネットワークまでご連絡ください。

新年度に向けて

世の中が「デジタル化」と言い始めて久しいですが、心の絆ネ
ットワークはまだとても「アナログ」なNPOです。後見事務（日
誌や出納）、相談の記録など「手書き」の方が便利な部分もあり、
未だ部分的にパソコンを使っている状態です。

もうそんな時代ではなく、業務改善（情報を安全で確実、適切
な管理！）と情報共有ということで、「**地域後見システム**」とい
うものを導入することになりました。東京からZoom（遠隔でのビデオ通話）を使ってこの
システムの説明を受け、こちらの事務局では理事とスタッフがみんなでひとつの画面を見な
がら相談したり質問したりという、アナログなのかデジタルなのか・・・。



特定非営利活動法人 心の絆ネットワーク

広島市中区八丁堀6-11

TEL 082-221-8606 FAX 082-224-5032

メール info@cocoronokizuna.jp

心の絆ネットワーク

